

サヤインゲン

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	さび病	白絹病	菌核病	炭疽病	角斑病
タチガレン液	32		14	3			◎			
ベンレート水㊟	1		*a	3				◎		◎
アフエットFL	7		1	3	◎	◎		◎		◎
カンタスDF	7		1	3	◎			◎		
アミスター20FL	11		1	3	◎			◎		◎
ファンタジスタ顆水	11		1	3	◎			◎	◎	
セイビアーFL20	12		1	3	◎			◎		
ニマイバー水	1・10		*a	3	◎			◎	◎	

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊿：ペノミル含有剤 ㊿を使用した場合には同じ作での㊿は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。

*a:収穫開始14日前まで

サイインゲン

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	ア	カ	ア	ハ	ダ	オ	ヨ	シ	ウ	マ	シ	マ	マ	ハ	そ
					ブ	メ	ザ	モ	イズ	オ	ト	ロ	ラ	メ	ロ	メ	メ	ハ	の
					ラ	ム	ミ	グ	ズ	オ	ト	イ	ナ	シ	ノ	ヒ	ダ	ニ	虫
スピノエース顆水	5		1	3				◎											
カルホス粉	1B		*b	1															タ
スミチオン乳	1B		21	4	◎	◎				◎				◎	◎		ガ		テ
ダイアジノン乳40	1B	劇	*c	3	◎														◎
マラソン粉3	1B		7	3	◎		◎	ハ	◎				◎	◎	◎		◎	◎	ミ
アグロスリン乳	3A	劇	7	3	◎														テ
アディオソ乳	3A		14	3	◎	◎	◎			◎	◎	◎							ア
トレボン乳	3A		1	2	ワ								◎			◎			
アドマイヤー1粒	4A		*a	1	◎														
アクタラ顆溶	4A		1	3	◎														
アルバリン顆溶	4A		1	2	◎	◎		◎											コ
スタークル顆溶	4A		1	2	◎	◎		◎											コ
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3	◎	◎	◎												ア
ディアナSC	5		1	2			◎	◎				◎							コ
アフーム乳	6		1	2				◎											ア
コルト顆水	9B		1	3	◎														コ
ニッラン水	10A		1	2															◎
コテツFL	13	劇	1	2															◎
バダンSG溶	14	劇	1	3				マ											ア
アタブロン乳	15		1	2			ナ												ア
カスケード乳	15		1	2				マ				◎							
ダニトロンFL	21A		1	1															◎
ダニサラバFL	25A		1	2															◎
フェニックス顆水	28		1	2								◎							ア
プレバゾンFL5	28		1	3				◎				◎							
ベネビアOD	28		1	3				◎				◎							
ヨーバルFL	28		1	3								◎							
ウララDF	29		1	2	◎														
プレオFL	UN		1	2				◎		◎		◎	◎	◎					

*a:定植時又は播種時 *b:播種時 *c:収穫開始7日前まで

ア:アズキノメイガ ガ:マメヒメサヤムシガ

コ:コナジラミ類 タ:タネバエ テ:インゲンテントウ

ナ:ミナミキイロアザミウマ ハ:ハモグリバエ マ:マメハモグリバエ

ミ:マメハンミョウ ワ:ワタアブラムシ

サイインゲン

サヤインゲン

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
モザイク病	生育期	1. 播種後から生育初期までは寒冷紗などにより有翅アブラムシの飛来を阻止する。 2. アブラムシ類を防除する(アブラムシ類の項参照)。	インゲンのほかソラマメにも発生し、種子およびアブラムシによって伝染する。
炭疽病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 スクレアフロアブル* 2000倍	インゲンのほか多数のマメ科植物に発生し、種子または土中の被害茎葉によって伝染する。 初夏および初秋に降雨の多い年に多発する。 *豆類(未成熟)での登録
さび病	生育期	・ 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。	7～8月から成熟期にかけて発生する。
灰色かび病・菌核病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 セイビアーフロアブル20 1000～1500倍	
アブラムシ類	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤー顆粒水和剤* 10000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 トレボン乳剤# 1000倍 マラソン乳剤* 1000～3000倍	* 豆類(未成熟)での登録 # ワタアブラムシのみに登録
マメハモグリバエ	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤# 2000倍 バダンSG水溶剤 1500倍	# ハモグリバエ類での登録
シロイチモジマダラメイガ・マメシクタイガ	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤を散布する。 マラソン粉剤3 3kg/10a	
ハダニ類	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤を散布する。 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍	乾燥が続くと多発する。発生初期に防除する。
その他の病害虫		アズキノメイガ	